

第五章 敷設水雷及附屬具

第一節 總 說

敷設水雷ナル名稱ハ三十七、八年戰役前後迄ハ魚形水雷即可動水雷ヲ除ケル一般ノ水雷ヲ呼稱スル總稱ニシテ即チ敷設水雷ニハ視發水雷ニ屬スル各種水雷、電氣觸發水雷及電氣機械水雷等ヲ包含セシガ同戰役中機械水雷ノ聲價斬然頭角ヲ顯ハスニ及ビ機械水雷ハ自ラ從來ノ敷設水雷ヨリ離脫ノ姿勢トナリ敷設水雷ト相對立スルニ至レリ乃チ本章ニ述ベントスル敷設水雷ハ機械水雷ヲ除ケル敷設水雷ニシテ即チ海底水雷、浮漂水雷、電氣觸發水雷等ノ管制水雷竝ニ其ノ屬具ノ進歩ニ就キ略述セムトスルモノナリ

敷設水雷ノ起原ハ甚ダ遠シ即チ西曆一八四〇年(天保十一年)頃米國ニ於テ「コロネル、エス、コールト」

ニ依リ幾多ノ實驗行ハレ電氣的ニ水雷ヲ發火スル方法ヲ完成シ敷設水雷ノ部類ニ屬スベキ水雷ハ稍々其ノ形式ヲ具備スルニ至レリ爾來戰爭ヲ經ル毎ニ跳躍的ニ進歩變遷シ其ノ或ルモノハ又淘汰廢棄セラレテ近代ニ及ベリ

我國ニ於テ近世式水雷罐實物ノ渡來セシハ明治十一年六月軍艦扶桑ガ二百五十斤海底水雷二個ヲ英國ヨリ購入持參セルヲ嚆矢トス之ヨリ先我國ニ於テハ水雷製造ノ急務ヲ認メ明治七年三月英國留學中ノ平元秀次郎ヲシテ米國ニ轉留、水雷製造法ヲ學習セシメトシ同年九月ニハ在上海英人「デブソン」儲入交渉ヲ行ヒ(別紙第一)同月海軍省中ニ假ニ水雷製造局ヲ置キ十一年五月ニハ英國ニ留學中ノ八田裕二郎ヲシテ引續キ滯英水雷術ヲ專修セシムル等百方之ガ實現ニカムル所アリ斯クテ明治十五年赤羽工作分局ニテ五百斤入水雷罐ノ製造ヲ開始シ明治十七年内國製造業者(東京京橋區田中久重)ニモ一部ノ試製ヲ爲サシメ成功ヲ見ルニ至レリ此間別ニ「マツクヴオーイ」機械的震動水雷罐同漂着水雷罐等ノ購入及試製ヲナセシガ明治十九年漸ク我海軍ニ於ケル敷設水雷ノ制式ヲ定メタリ左ノ如シ

海底水雷、浮漂水雷、電氣觸發水雷、電氣機械水雷

爾來約三十年間ニ亘リ我海軍ニ於テハ多少ノ進歩改廢無キニアラザルモ之ヲ諸他ノ兵器ニ比スレバ殆ド停頓ノ狀態ニ在リシト云フヲ妨ゲズ此間僅ニ明治三十三年頃ヨリ牧村式沈底浮揚水雷ノ實驗採用ヲ見其ノ他尙二、三類似ノ考案アリシモ何レモ實用セラルルニ至ラズ又附屬兵器中視發弧器ハ明治三十

一年軍衛所視發弧器ノ採用セラルルアリ又明治晩年倍心電纜節約裝置ノ考案アリ大正四年之ヲ兵器ニ採用セラレ其ノ前途ヲ矚望サルルニ至リシモ三十七、八年戰役以來機械水雷ノ聲價ノ急激ナル擡頭ニ加フルニ兵術ノ大勢ガ防禦線ノ前進擴大ヲ企及スルノ切ナルモノアリ管制水雷ハ斯クテ急速ニ其ノ聲價ヲ失墜シ前記倍心電纜節約裝置ノ成功ノ如キモ以テ頽瀾ヲ既倒ニ回ヘスニ由ナク大正五年ヨリ七年ニ亘リ全然我水雷兵器ヨリ除去セラルルニ至レリ(本章第二節及第五編第三章參照)別紙第一乃至第四ハ敷設水雷ノ創始當時ノ事情ヲ語ル參考資料ナリ

一、別紙第一及第一ノ二 明治七年水雷竝ニ火藥製造者雇入上請

一、別紙第二 明治十一年傭英人教師「セー、パール」英國出發ニ際シ所要兵器ノ購買託送目錄(上野全權公使翰旋)

一、別紙第三 扶桑ニ裝備ノ水雷火工品兵器主要品目錄

一、別紙第四 水雷罐及關係諸器具ノ製造開始要求

別紙第一

水雷竝ニ火藥製造ノ者雇入上請

水雷製造ノ儀ハ海防緊要ノ具ニ就テハ兼テ當省生徒中ヨリ巴ニ米國ニ於テ即今傳習爲致候得共何分實地施行ノ儀ハ未ダ熟練ニモ至リ不申就テハ在上海英國人「デアソン」儀ハ所長ノ者ニ付當省へ雇入度此旨御許可ノ上ハ當省ヨリ直ニ同人ハ及掛合全ク相對ノ條約取結ビ諸事定額金ヲ以テ取計候條至急御許容相成度此段上請仕候也

明治七年九月二日

三六一

海軍大輔	川村純義
海軍卿	勝安房
太政大臣	三條實美殿

別紙第一ノ二

水雷竝ニ火藥製造者雇入之儀ニ付更ニ上請

水雷製造ノ義海防緊要ノ具ニ付テハ在上海英國人「デブソン」儀所長ノ者ニ付雇入度段伺出候處條約書案相添更ニ可伺出旨御指令之趣承知仕候然處同人府下在留之儀ニ候得バ必ズ條約書案ヲ以テ可伺出答ニ候得共他方ニ罷在候ニ付雇入之可否御許容無之内ハ呼寄セ難相成儀ニ御座候且同人儀ハ砲彈藥水雷製造ニ長ズル者ニシテ甚得難キ人物ニ有之候尤モ同人儀此以前來朝致居候節大略内談致候處月給四百弗被下候得バ御雇相願度旨申居候其ノ上今般紹介致候者モ御雇教師ノ内ニ有之候ニ付決テ不都合ノ儀ハ無之候間右呼寄セノ處御許容相成候得バ來看ノ上結約追テ可申上候條何レニモ此際迅速御沙汰奉仰候也

明治七年九月七日

海軍大輔	川村純義
太政大臣	三條實美殿

右上請ハ九月十日附テ以テ開届ケラレタリ

別紙 第二

貴省ノ爲雇入相成候大砲家「パール」氏本邦着ノ上「トルヒード」學教授ノ爲必要ノ器具買入携帶致度旨申出、右ハ本邦ニ於テ得難キ器具ニテ今度携帶不相成候テハ斯術指南ノ要具ヲ缺キ候儀ト存候ニ付同氏申出ノ通右ノ器具極々入用ノ分同氏ニ命シ購求方取計ヒ別紙目錄ノ通、其ノ價計英貨四百四十七磅拾志四片ニ有之云々

明治十一年三月二十七日

全權公使 上野景範

海軍大輔 川村純義 殿

(別紙)〔主要品ノミテ掲記ス〕

「エレクトロ、コンタクト」水雷火	二	二百五十斤水雷火	二
丁印「ジヤンクシヨ、ボクス」	二	二吋ムーリング用鐵線索	五十尋
水雷火用組織「コール」	百尋	水雷火用單鏈索	百尋
四心水雷火用鏈索	二十五尋	七心同上	一尋
「トムソン」氏ノ反射電流氣計	一	但水雷火用見本	一
艦船用放火大電氣箱	二	「ホールトメーター」	二
接線電流計	一	「アスタチツキ」電流計	二
鏈索(現今ノ戰地電信用見本)	二百碼	「スマス」グロウウス「ダニエル」パンセンス「電氣箱各一	一
磁石電氣機械	一	「タンチエント」電流計	二
「ホウイートストーン」天秤(バランス)	一		

其ノ他(水銀、硝酸、硫酸、硫酸銅、絹卷銅線、隔緣板類等多數)

(編者曰)前記中「エレクトロ、コンタクト」水雷火ハ原名「イレクトロ、コンタクト、トーヒドース、アンドウオークス」ト稱シ外裝水雷ノ一種ナルガ如ク明治十五年頃英人「パール」ノ一日歸英ノ上持參セル電氣觸發水雷トハ之ヲ異ニスルガ如シ又二百五

十三、水雷火ノ原語ハ「マインズ、グラウンド、オルボーヤント」(二五〇斤)トアリ海底水雷(二五〇斤)ナリ

別紙第三

扶桑ニ裝備ノ水雷火兵器主要品(着邦時)

- 一、端船用ノ二房入電氣箱 四個
- 一、發射用ノ六房入同上 二個
- 一、發射用ノ「メルモールド」シタル小縮索 八百碼
- 一、端船用ノ 同 上 八十碼
- 一、百斤「アウトリツガー」水雷火 十二個
- 一、海軍第九號海底爆發導火管 二百五十個
- 一、電氣指針及連排電氣箱 二個
- 一、硝砂、樹膠溶液其ノ他要具雜品
- 一、「ハーバー」氏水雷火ノ全備シタルモノ(内容左ノ通) 二個
 - 一、大形ノ敏捷ナル電氣水雷火
 - 但「ニルク」樹ノ浮標、輕荷、浮標索等及各「ローテツト、ボールト」二個ヲ附シテ全備シタルモノ
- 一、小形ノ同上 二個
- 但右同斷
- 一、電氣用具ヲ附シタル大「ブレイキ」 一個

別紙第四

- | | | |
|------------------------------|---------|----|
| 一、同 | 小「ブレーキ」 | 一個 |
| 一、四個ノ「ボールト」ヲ容ルベク準備シタル「マガゼイン」 | | 二個 |
| 一、大形水雷火ニ用フル鋼鐵製長サ八十尋ノ電氣挽索 | | 一個 |
| 一、小形水雷火ニ用フル同上製、長サ八十尋ノ同上 | | 一個 |
| 一、鐵製六吋輪ノ大滑車 | | 一個 |
| 一、鐵製五吋輪ノ小滑車 | | 一個 |
| 一、十房入放射用ノ電氣箱 | | 一個 |
- 因ニ記ス、金剛比叡モ殆ド同様裝備ス唯要具雜品等ニ於テ一部ヲ異ニスルノミ

五百斤入水雷罐外七廉御備付ノ儀至急御許可相成度儀ニ付上申

水雷罐外九廉實地演習用トシテ御備付相成度儀ニ付昨年四月上申致置候處其ノ後會計局ヨリ右費用幾何ヲ要スルヤ詳細取調通知可致旨照會有之候ニ付即時取調方ニ着手致候へ共未ダ曾テ内國ニテ製造セザル品ニテ取調方甚ダ困難ナル品ニ有之今以テ取纏兼候處別紙掲記ノ品丈ハ漸ク代價モ略知シ且即今浦賀灣ニ於テ實驗ノ爲至急要用ニ有之候間別紙掲記ノ品丈ハ此際製造方至急御許可相成候様仕度尤モ右製造方ニ就テハ造船所へモ最初及間合候得共出來兼候趣ニ付亦羽工作分局へ及間合候處同局ニ於テハ製造方差支無之趣依テ代價取調方依頼候末別紙但書ノ通報知有之候ニ付教師へモ篤ト及協議候處相當ノ見込ニ有之候間若代價支辨方昨年當所上申ノ通御許可相成兼候ハバ當所定額内ヲ以テ所辨候様可仕候此段更ニ上申候也

明治十五年一月二十七日

川村海軍卿代理

陸軍卿大山巖殿

水雷衛隊督所長

柴

山

矢

八

三六五

誌

一、五百斤入水雷罐	二個	但一個ニ付六凡金九十五圓
一、百斤入水雷罐	一個	同
一、七條電線接続函	二個	同
一、七條電線並ニ接続函	一個	同
一、一條電線接続函	一個	同
一、丁字形接続函斷線器外套共	一個	同
一、モツシルーム鍍	一個	同
一、グラブネル鍍	一個	同

二十八圓

三十圓

七圓五十錢

二圓三十錢

四圓四十錢

三百二十七圓

五十五圓